

脳卒中

脳の血管が狭くなったり、詰まったりして血流が悪くなったり、血管が破壊され出血し、脳が障害を受ける状態を「脳卒中」と言います。

脳卒中には、脳虚血によって起こる疾患を「脳梗塞」、出血によって起こる疾患を「脳出血」、脳の周りの隙間に出血する「くも膜下出血」に分類されます。

いずれも病気が起こる場所は脳です。

脳卒中を起こすと、半身麻痺、感覚障害、ふらつき、嚥下障害、認知症などの症状が現れます。

原因)

脳梗塞 — 血管内にコレステロール等が沈着し、血流を防いでしまう

脳出血 — 高血圧が続き脳内の細い動脈が弱くなり、血管壁が破れて脳に出血する

くも膜下出血 — 脳を包む膜と脳表面の間に、出血する

治療)

「脳梗塞急性期」では、血栓を溶かす薬、血管が固まりにくくなる薬、脳を保護する薬など使い、血圧はあまり下げません。

「脳梗塞急性期」では、血圧を下げ、脳の血液の塊が大きくなると手術をすることもあります。

「くも膜下出血」では、手術が原則です。慢性期には再発を防ぐために高血圧、糖尿病、脂質代謝異常、肥満をコントロールする事が大切です。

歯科治療においては、血液を固めにくいような薬剤（ワーファリンなどの抗凝固薬やアスピリンやプラビックス、プレタールなどの抗血小板薬など）を服用している場合、止血に影響することもあるので、事前に確認しなければなりません。

北山歯科クリニック

濱田 恵美